



『まるごと』入門 (A1) <かつどう> 教え方のポイント

1. 授業の構成の目安 (教案例 トピック3)

T3 たべもの だい5か なにが すきですか (90-120分)

活動	目的	進め方の例	時間
トピックのイメージ作り	背景知識の活性化、動機づけ	このトピックでどんなことを学習するのか、写真を見て母語や媒介語で話す。食べ物の話題、レストランでの注文の仕方、一緒に食事する場面などが想定される。	5分
Can-doの確認	学習目標の明確化	Can-doを読む。自分の身の周りで使えそうな場面を思い出す。	
1. 何が好きですか。(30-40分) <場面1 Can-do 9 好きな食べ物が何か話します> ビュッフェで並ぶ食べ物を見ながら、友だちに好きなものを聞いてとってあげる場面。			
1-1 聞いて言いました	語い導入	【聞く前】 学習者に p.42 の写真と文字を見る時間を1分ぐらい与える。 【聞く】 音声を聞いて写真を指さす。 【聞いた後】 ペアワーク：一方はローマ字を頼りに単語を言い、他方は聞いて写真を指す。適宜交代して行う。 (注) ・音声は語単位ではなく文単位となっている。その文の中で、学習者は「肉」など食べ物の語いに集中して聞く。複数回聞く。 ・学習者が自分に必要な語いを選んで覚えていく。全部の語いを覚えなくてよい。	10分
1-2 聞きましょう	聴解活動(聞いて、どのような場面・文脈・状況で文型や語いが使われているか理解する)	【準備】 例題を聞いて、場面・やり方を確認する。 (注) イラストや状況を手がかりに推測しながら聞く。聞く目的にあったところが聞き取ればよく、全部聞いて理解できる必要はない。不必要なところは聞き飛ばせることも重要。 【聞く】 問題 2-5 問を聞く。聞く前にポイントを示し、聞くポイントを変えて複数回聞く。	10-15分



		<p>【聞いた後】 答えを確認するときは、選択肢や単語で答える。ここでは文単位の発話は求めない。</p> <p>「1-3 ペアで話しましょう」の活動にスムーズにつながるように、会話の中でどんな表現を使っていたか聞き、思い出せなかったら、表現に注意して複数回聞く。メモの例文を利用して「も」「と」について簡単に説明する。</p>	
1-3 ペアで話しましょう	話す活動(表現を見ながら、自分の本当のことを言えることが目標)	<p>【準備】 ペア会話の表現を見て、形式を確認する。</p> <p>【話す】 シャドーイングなどをして表現を練習する。ペアで練習した後、<input type="text"/>に自分の本当のことを代入して話す。教師は意味のあるやりとりになっているかどうかフィードバックする。メモの例文を利用して、「が」について簡単に説明する。</p> <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時間中は表現を見ながらでよい。覚えるまで練習しなくてよい。但し、教科書を見ながら読むことは避けたい。ペアを代えて話すことで少しずつ見ないでも言えるようにしたい。 ・シャドーイングとは、教科書を見ないで音声を聞いてほんの少し遅れて繰り返す活動。意味を考えながら聞くので理解も深まり、同時に発話がなめらかになることも期待できる。 	10-15分
<p>2. コーヒー、のみますか。(30-40分) →以下、1と同じような流れで進める。</p> <p><場面2 Can-do 10 ほかにの人に飲み物を勧めます></p> <p>ビュッフェの飲み物を見ながら、友だちの分もとってあげようとしている場面。</p>			
<p>3. いつも朝ごはんを食べますか。(20分)</p> <p><場面3 Can-do 11 朝ごはんの習慣について話します></p> <p>ビュッフェで食べ物をとってテーブルについてから、朝食を食べながら会話している場面。</p> <p>p.45は朝食ビュッフェの改善のために、ホテルの人が利用者にインタビューする場面。</p>			
Can-do チェック	本日の学習のふりかえり	Can-do チェックをして、コメントを書く。自分が書いたコメントを母語で話す。時間があれば、コメントをクラスで発表して共有する。	5-10分



T3 たべもの だい6か どこで たべますか。(90-120分)

活動	目的	進め方の例	時間
<p>1.きょうは どこで たべますか (40-50分)</p> <p><場面1 Can-do 12 好きな料理を言います></p> <p><場面2 Can-do 13 昼ごはんをどこでいっしょに食べるか友だちと話します></p> <p>会社の同僚や友だちと昼ごはんを食べに出て、店がたくさん並んでいるところで話をしている場面。店の情報を持っているほうが会話をリードし、もう一方はその勧めに従う会話。</p>			
<p>2. ハンバーガーを たべましょう (40-50分)</p> <p><場面1 Can-do 14 メニューを読みます></p> <p>現実(または現実に近い)文字情報を、文脈の中で、すでに持っている知識を使って理解する。</p> <p><場面2 Can-do 15 ハンバーガーの店で簡単な注文をします></p> <p>ファーストフードの店で注文して、店で昼ごはんを食べる会話。</p>			
<p>生活と文化 (5-10分)</p> <p>・学習者は、写真を見て、自分が気づいたことや写真に関連した自分の経験を母語や媒介語でクラスメートや教師と話す。教師は、学習者の気づきが促されるような質問をする。</p> <p><質問例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・何の写真ですか。おいしそうですか。何を食べていますか。 ・こういう店で食べたことがありますか。 ・この中で何を食べてみたいですか。 ・どうやって食べていますか。→立って食べるスタイルは、身の周りにありますか。 <p>・学習者は、授業後自分なりの興味を持ってインターネットで調べる、実際に日本料理のレストランに行く、facebookで日本人の友だちを作るなどの行動が求められる。行動することで、文化という抽象的なものに実感を持てるようになり、日本の人々も自分たちと同様ひとりの個人であること、日本の社会も、学習者が属している社会と同様複雑で多様で、少しずつ変化していることを、自分自身と関係づけて認識できるようになることが期待できる。</p> <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の見方をふり返ったり、他者の見方を受け入れたりすることができるようになるために、ほかの人と話すことは重要。教師は、学習者同士の情報共有の場を促進したり、気づきを深める助けをしたりする役割が期待される。 ・教師は、写真に関連する情報を提供することはよいが、教師の説明が授業の中心にならないようにする。 ・「生活と文化」の授業は、母語や媒介語が必要となるので、教師が対応できない場合はわかる人(他の教師やボランティアなど)の協力を求める。 			
Can-do チェック	本日の学習のふりかえり	Can-do チェックをして、コメントを書く。自分が書いたコメントを母語で話す。時間があれば、コメントをクラスで発表して共有する。	5-10分



※文字指導の考え方（ひらがな、カタカナ）

コースの必要性に応じて、目標を設定し、文字指導を行ってください。本書では、終了時まで教科書にあることばを60%読めるようになることを目標と考えています。そのため、学習内の日本語にはすべてローマ字ルビがついています。書くことは、名前や定型表現の書き写し等、短い限られたものになっています。

2. 各課で注意が必要な事項

各課で、以下のようなことが書かれています。

1. 執筆意図（状況設定、語いや表現が選ばれた意図）
2. 文法の扱い方の留意点（説明しすぎず、課題遂行に必要な範囲で簡単に触れる）
3. 理解優先の授業の進め方（文型・文法をはじめに教えない。聴解活動から入り、その中で必要な文法事項を発見させる）
4. 社会言語学的補足
5. 生活と文化の写真の選定意図と扱い方

トピック 1 にほんご

第1課では文字表記の種類を知り、第2課では文字と音の規則性を理解する。

第1課 こんにちは

① こんにちは 「Can-do 1 挨拶をします」

「日本ではどうですか」という質問の答えは一般的には（b おじぎ）だが、おじぎ以外の挨拶もすることを説明する。おじぎ場面の対人距離（日本ではやや遠いと言われる）についても話し合うとよい。

②の「聞いて言いましょう」は、「さようなら」のいろいろな答え方を示した。「お先に失礼します⇒おつかれさまでした」は、イラストから会社場面であることを理解させる。6～9番の「すみません」3種類も、イラストから使用場面を理解させる。軽いお礼として「すみません」が使われる理由を話し合うとよい。

③のペア会話は、ジェスチャーや対人距離に注意して行う。クラス内を歩きまわれればよいが、無理なら立ち上がって複数の人にするだけでもよい。

② ひらがな・カタカナ・漢字（かんじ） 「Can-do 2 日本語を読みます」

いろいろな文字表記の中から日本語の「こんにちは」を見つける。いろいろな表記は、左上から、英語、中国語、韓国語、アラビア語、ドイツ語、タイ語、ロシア語、ヒンディ語、モンゴル語、日本語、ミャンマー語の11言語。「こんにちは」のかわりに別の表現をする言語もあるが、ここでは表記に焦点がある。ローマ字やアラビア数字もあわせると、日本



語の表記方法は 5 つあることを確認。次に、新聞や雑誌から、ひらがな、カタカナ、漢字を発見する。入門期から新聞や雑誌などを見てわかることがあれば、動機づけになる。日本語の文字表記は複数あって大変ではあるが、文字の多様性に興味を持たせたい。

③あなたの まわりに 日本語が ありますか。 「Can-do 2 日本語を読みます」

写真左はパリで、右はバンコクの町中で見かける日本語表記である。海外でも日本語表記を見かけるか話し合い、あれば写真をとってきてもらう。教室外の現実世界で学習できることに気づかせたい。

第2課 もういちど おねがいします 「Can-do 3 教室のことばを話します」

①はい、います

②きいて ください

③もういちど おねがいします

いろいろな出欠の答え方を示した。写真から意味を推測させてから②の「聞いて言いましょう」をする。教室内・外で、できるだけ日本語を使うように、学習者に促す。

④ひらがな・カタカナ

気をつける音には、五十音表に色がついている。

⑤なまえ 「Can-do 4 名前と国を書きます」

カタカナ表記を見てアルファベット表記を選ぶ。「ロシア (3 拍)」「マハティール (5 拍)」「シュミット (4 拍)」のメモを見て、拗音・長音・促音などの拍の違いに気づかせる。次に、五十音表を見ながら学習者が自分の国と名前を名札に書く。名札は、『まるごと』のサイトからダウンロードする。机の上におく形式の名札だとクラスで使える。名刺にすると、第3課で使える。名札は、ポートフォリオに入れる。

<生活と文化> なまえ

「まおちゃん Mao-chan」という表記と写真を見ながら、どれが姓・名・呼び方か考えさせる。また、写真を見て「ちゃん」「さん」「様」「くん」、呼び捨ての使用場面を推測させる。「ちゃん」は子ども、「くん」は若い男性、「様」はお客様、呼び捨てはかなり親しい間柄の主に男性同士が使う、「さん」は、そのもので敬意を示すので「松下課長／松下さん」のどちらも使用可能、などが一般的な説明。初対面で名前を呼ぶことが一般的であったり、肩書が必須だったりするなど国によって違うので、話し合う。



トピック2 わたし

第3課 どうぞよろしく

①どうぞ よろしく 「Can-do 5 自分のことを簡単に話します」

イラストから国際交流パーティーという場面を理解させ、話す内容（名前、出身、言語など）を推測させる。はじめに、イラストを見ながら音声を聞き、誰と誰が話しているかを理解する。次に名前を聞く、という二段階で行う。答えあわせの後、「えっ?」「すみません。もういちど…」(聞き取れなかったとき)、確認の表現「…ね」を簡単に説明する。

外国人の名前は聞き取りにくいので、「の、だ」や「ク・リ・ス・ティ・イ・ナ」のように、ゆっくり1語（一拍）ずつ区切る言い方も練習する。さとうさんは「さ、と、う」とひらがなを読むように発音しているが、「satoo（さとお）」という場合もある。

②べんきょうちゅうです。 「Can-do 5 自分のことを簡単に話します」

①の「聞きましょう」の前に、地図と国名を確認する。音声では、「中国です」「中国人です」と、いろいろな答え方を示した。②の「聞きましょう」の前に、名前や「～語」を確認する。答えを確認後、「できる、できない、勉強中」などの表現が理解できたか確認する。

③のペア会話は、自分の母語（中国語）ができるか相手に聞く場面設定。相手が自分の母語ができたり、勉強中だという状況は相互交流にふさわしい。「韓国、韓国人、韓国語」をいうメモを見て、規則に気づかせ、ほかの国についても応用できるか考えさせる。

③おしごとは? 「Can-do 5 自分のことを簡単に話します」

写真からは職業がわかりにくいので、①の「聞きましょう」の前に写真を見て、職業を推測する。学習者が自分の職業の語いを知りたい場合は教えてもよい。「～で働いています」という形式で言うと語いが増えすぎず便利。

④めいし 「Can-do 6 名刺を読みます」

名刺が4枚（会社員、公務員、エンジニア、教師）。一般知識を用いて、名刺に書いてある要素（会社名、部署名、住所、電話番号など）を推測させる。ローマ字を手がかりにして名前を読む。姓・名の違いや、どれが男女の名前か話し合う。姓名の順番などの自国との違いに気づかせる。

次に、名刺を渡す写真を見て、「はじめまして…」の使用場面（会社など）を推測させる。第2課で作った名刺を渡しながらペアで挨拶する。日本では、相手に名前が読めるように名刺の向きをかえて渡す傾向がある。「…と申します」という改まり度の高い表現も簡単に説明する。練習はしなくてもよい。

第4課 かぞくは3にんです

この課は p.37 のイラストにあるように、写真を見て話す場面。



①かぞくは 3にんです 「Can-do 7 家族のことを簡単に話します」

①「聞いて言いましょう」は、「わたし」を中心にした場合の親族名称と人数の表現を練習する。②の「聞きましよう」の前に、写真を見て「わたし」がどの人か確認しておく。A1レベルでは自分の家族について言えればよいので、親族名称をすべて覚えていなくてもできるように、イラスト (p.36) を指さしながら、③のペア会話を行う。

②おいくつですか 「Can-do 8 家族の写真を見て話します」

写真の人の年齢や住んでいる所について話すという場面設定。写真を見て「かつこいい」「わかいい」「きれいい」などという肯定的なコメントは、人間関係作りにプラスになると思われるが、クラスで話しあってみるとよい。「このひと」という表現があるが、「この」は語いとして扱い、「その、あの」までは教えなくてよい。「どこにすんで (い) ますか」は定型表現として扱い、動詞のテ形の説明などはしなくてよい。

②の「聞きましよう」の前に、写真と解答欄を一致させ、解答欄に何を書くのか確認する。解答はひらがな、ローマ字、母語のいずれかでもよい。ペアで話すとき、学習者が自分の家族や友だちの写真を持ってくると楽しいが、p.36-p.39 の写真を代用してもよい。p.38-p.39 では、「～すんです」(「い」の脱落) という自然な発話を聞かせたり、言わせたりにしていることに注意。(第7課も同様)

<生活と文化> 家族

日本語では、自分の家族とほかの人の家族では呼び方が違うことを簡単に説明する。自分の国と比較してみる。親族名称の練習に時間を割かなくてよい。

トピック3 たべもの

第5課 なにが すきですか

①なにが すきですか 「Can-do 9 好きな食べ物がなにか話します」

旅先のホテルでビュッフェスタイルの朝食をとっている。食べ物をとる順番を待つ間のちょっとした会話。朝食に洋食と和食の2種類の写真ある。日本は米が主食だが、パン食も一般的である。「h.ごはん」は、炊いた米の意味。一方、朝ごはん、昼ごはんというように食事一般を示すことも教える。また、「g.みそしる」は具材と汁のバランスや、具と汁のどちらを口に含んでいるかなどによって、「食べる」こともあれば「飲む」こともある。ここでは一般的に用いられるフレーズとして「「ごはん」とみそしる」を食べます」としている。語い導入の音声は文になっているので、聞く前に一語ずつ教師が発音を聞かせてもよい。その後、①音声を聞きながら順を追って単語を目で確認する。②「食べます」の意味を確認し、もう一度音声を聞き、繰り返して言う。

①-①に続いて、②-②③は「～好きです」を使った聞き取り練習 (会話のインプット) と



ペア練習。ビュッフェの食べ物を前にした会話を想定していることと、導入した語で答えられるようにするために「好きな料理は何ですか」ではなく、「何が好きですか」で会話を進める。

好きな食べ物の名前の聞き取りに集中するため、文法「NとN」は会話をすべて聞いたあと、確認する。「が」「も」は、ペア会話の前に、簡単に意味確認をする。ここでは「も」に相当する学習者母語があれば、それを示す程度でよい。また、文法メモにはないが、肯定文は「が」、否定文は「は」を使っている。助詞の説明はできるだけ単純にする。

②コーヒー、のみますか 「Can-do 10 ほかにの人に飲み物をすすめます」

①と同様、語い導入（飲み物）をし、会話を聞く、話す、という進め方をする。ここは、ビュッフェの最後に飲み物コーナーで、ほかの人にも飲み物を勧める場面。まずは自分の飲み物をとりながら、ついでにほかの人にも同じ飲み物でいいか聞いてみる、という場面を想定しているため（イラスト参照）、ペア会話では疑問詞（例「何を飲みますか」）を使っていない。「(私はコーヒーを飲みますが、あなたも) コーヒー、飲みますか。」という意味になる。

③いつも あさごはんを たべますか 「Can-do 11 朝ごはんの習慣について話します」

①は皆で朝食をとりながらの軽い会話。②はホテルの人にたのまれて、ビュッフェのサービス改善のためのアンケートに答えるという場面を想定。学習者が書いたアンケートの答えは、この後のペア練習のときに利用する。文法は意味（よく、あまり）と用法（あまり～ない）を簡単に説明する。

食前、食後のあいさつのイラストは、合掌しない方法をイラストにしている。個人差、年代差（地域差もあるようだが、初等教育では給食のときに合掌して食べ始めることが多い）があり、もともと仏教的な作法でもあるため、仏教とは異なる宗教の学習者が模倣しても問題のない方法として合掌なしとした。

第6課 どこで たべますか

①きょうは どこで たべますか

「Can-do 12 好きな料理を言います」

「Can-do 13 昼ごはんをどこでいっしょに食べるか友だちと話します」

この課は、会社や大学の昼休みに、同僚や友だちと昼食をいっしょにするという場面設定。いろいろな店や屋台が立ち並んでいるエリアや、ショッピングセンターなどのフードコートを想定している。食べ物の写真を見て、食べたことがあるか学習者に聞いてもよい。うどんの上ののっているものは、えびのてんぷら。そばは、つゆにつけて食べる。つゆは写真の右上方。

②は料理の語を使った小さい会話。「好きなN」は構造を説明するよりも、表現として簡単



に示す。料理の語を使って答えることが主目的なので、学習者が「何が好きですか」を使ってもかまわない。

③は昼ごはんを食べにどこに行くか、どんな店か、聞くポイントを変えて2回は聞きたい。形容詞「やすいです」「おいしいです」「はやいです」はキーワードなので、聞く前に意味と発音を確認したほうがよい。

④は「あの店」の意味を示すこと。イラストの人物はちょっと遠くを指差している。ハンバーガーやなら、「その店」ぐらいか。

②ハンバーガーを たべましょう

「Can-do 14 メニューを読みます」

「Can-do 15 ハンバーガーの店で簡単な注文をします」

メニューの値段は、本来、音声化する必要がなく、ローマ字は無用だが、学習用にあえてつけた。「ひとつ」「ふたつ」の発音聞き取りに注意。メニューは、レアリアを準備し、それを会話でも使うとよい。

<生活と文化> ファーストフードのみせ

注文してからすぐ食べられる手軽な食事として、日本で一般的に利用されているファーストフード店 6 種を紹介。注文したものが出てくるのが早く、料金も安い。立ち食いそばは駅構内などにあり、立ったままで蕎麦やうどんをすする。電車が来るまでのわずかな時間で小腹を満たすことができるのは便利だが、長居はしないし、できない。マクドナルドのように世界中にチェーンを持つ店は、値段やメニュー（ご当地メニュー）を比較するのもおもしろい。

トピック 4 いえ

扉の写真は、洋風の住宅が並ぶ新興住宅地と古い伝統的な日本家屋が続く町並み。どちらも現代の日本で見られる。

第7課 へやが 3つ あります

日本に住んでいる人（さかいさん）が、海外など離れている友だち（ロベルタさん）に Eメールで自宅に招待するという場面を設定し、どんな家（家の形態や場所、設備など）に住んでいるか伝える練習をすることがこの課の全体の目標。

①わたしの いえは せまいです 「Can-do 16 どんな家に住んでいるか言います」

①日本地図から出ている線に4人がつながっているが、最初は地図とのつながりを確認しなくてもよい。まず聞いて、だれがどんな形態の家に住んでいるかを言う文を聞く。アパートとマンションは、厳密に区別する定義がない。一般的に規模が小さいものがアパート、



規模が大きいものがマンションと呼ばれる。3は沖縄の伝統的な建築（平屋、2階がない）、4は比較的新しい和風建築。

②は、4人の①住んでいる場所、②家の形態（①と同じ）、③同居人の有無、④どんな家か、の4文をまとめて聞く。学習者は、地図上の場所や住宅の写真を指さしながら聞く。④はそれぞれ形容詞のペアのいずれかを言うので、聞く前に絵を見て、意味を推測させ、確認しておく。答えは写真からも容易に推測できるようになっているので、予測を確認する聞き方を促す。「～にすんで（い）ます」は、第4課で定型表現として導入した。この課では、一人でまとめて話したり、Eメールの文章なので、「すんでます」ではなく「すんでいます」としている（第4課同様、動詞のて形、「～ています」の意味など分析的な説明をしない）。

③は、②と同じ談話で自分のことを話す。家の形態の言い方は、アパートやマンションに当たるものがあるかどうか、英語のフラットやコンドミニアムなどに当たる言い方がある所もあるかもしれない。必要に応じてどんなことばを使ったらいいか教師が提示する。ペアで話した後で、クラスで発表させたり、ペアが同じか、またはよく似ている内容だったかどうかなど話す。

②エアコンが あります 「Can-do 17 家に何があるか言います」

①音声を聞いて、部屋にあるものの名前を指さす。外来語が多いので、日本語の発音にするために拍（●）とアクセントの高低（一、一）を横に表示した。ひと通り聞いた後で、発音練習してほしい。

②では、家具や電気製品があるかどうか、複数ある場合はいくつあるか聞きとる。数の言い方は同じページの下、③の部分にある。問題をする前に「ひとつ～むっつ」を聞いて、意味を確認しておく。

③は②と同じ談話で自分のことを話す。少しまとまった話を始めるときに「私の家には」と「は」を入れる。あるものを続けて言う場合は、「～もあります」になることに注意する。

③遊びに きて ください 「Can-do 18 友だちを家に招待するEメールを書きます」

①と②で学習したことを使って、招待のEメールを書く。読んだ人が行きたくなるように「ちかくに～があります」の文を入れた。「～」の部分に「おおきいデパート」「おいしいレストラン」、有名な場所（現地語のままでもよい）を入れて書くとよい。下線にひらがなまたはローマ字で書きこんでメールを完成させる（『まるごと』のサイトからタスクシートがダウンロードできる。書いたら、ポートフォリオに入れる）。

第8課 いい へやですね。

この課では、第7課で招待した人を、客として家に迎えることになったが、その前に友だちの助けを借りて部屋を片付ける、その後、迎えた客に自宅を案内するという場面を設定した。また、客として出かけるときを想定して、表札や地名表示を読む活動もある。



①にんぎょうは どこですか 「Can-do 19 ものを部屋のどこに置くか聞きます／言います」

①の(1)では、部屋の中にある物の名称を導入する。音声を聞いて指さしてひと通り確認した後、教師がランダムに「～があります」と言って、指さしさせる。(2)では、位置の言い方を導入する。箱を基準にした場合、「箱の～」という語順になることに注意。上、中、下、横についても、音声を聞いて指さした後、教師がランダムに言うといい。

②は、来客の前に部屋をかたづける場面。手伝う人が「Nはどこですか」と言うが、これは「Nはどこに片付けますか、置きますか」の意味。答えの「NのNをお願いします」は、「～に置いてください」の意味である。答えは、右の人形のイラストのように、置く場所に矢印を記入する方法でかく。

③では、すぐ上にある「2. 聞きましょう」のイラストを使って違う場所にそれぞれのものを片付けてみる。

②いらっしやい／おじゃまします 「Can-do 20 家を訪問します／家に友だちを迎えます」

来客を迎える、訪問する会話。

「どうぞあがってください」靴を脱ぐ場所と家の中の段差から「上がる」を使う。

「いただきます」は、第5課で紹介した。食べる前の挨拶だが、出されたお茶を飲むときにも使う。

部屋にあるものに興味を持ったなら、「これ、なんですか」と指差して聞くとよい。

「いいへやですね」「(お茶、)おいしいですね」「(これ、)きれいですね」など、感想を言う。(形容詞+名詞は、第14課で学習する。ここでは、「いい部屋」だけを提示する。)

トイレの場所を案内されたときに使っている「すみません」は、第1課で軽い感謝として使われることを学んだ。

③ここは わたしの へやです 「Can-do 21 家の中を案内します」

①音声を聞きながら指さし、部屋の名前の意味を推測・確認する。

②客に家の中を案内する場面。

③は、前の②と同じように「ここは～です」と言って家の中を案内する練習(したがって「そこ」、「あそこ」は必要ない)。間取り図を見ながら言うだけだが、客役になった人も、「いいへやですね」「ひろいですね」などと反応すると楽しい。

④ともだちの いえは ここです 「Can-do 22 外で名前や住所を読みます」

住所の手書き風のメモと町の中の地名表示の写真を一致させる(漢字の図形認識)。文字が完全に読めなくても(音声化できなくても)達成できるA1レベルの課題の一例。「田島一



男」は名前、「杉並区永福 3 丁目 53」は住所。母語で何が判断の決め手になったか話し合うと、ストラテジーの共有になってよい。

<生活と文化> へや

日本のマンガやドラマ、映画などで日本の家の中を見たことがあったり、日本に行って日本人の家を訪問した経験がある人がいるかもしれない。知識として日本では家に入る時に靴を脱ぐこと、(床ではなく)畳というマットが敷いてある部屋があること、ベッドではなく布団で寝ることなどを知っている学習者もいるかもしれない。そうした経験や知識を共有したり、現代の日本の住宅事情は洋風に変化していること(和風の伝統的なものと共存していること)などを、写真を見て知る。

写真：①子どものへや(子どもが一人で勉強したり寝たりする)、②ダイニング・キッチン(家事をしながら家族の様子が見える。対面式と呼ばれている)、③和室(押し入れに布団を収納し、昼は居間として、夜は寝室として使う。右下は押し入れ(中に布団などを入れる)、④和室(ふすまという引き戸で区切られている場合、開けると大きな一部屋として使うことができる)、質問「部屋をどう使いますか」では、だれが、だれと、どのように部屋を使うか、自分の家と比べてみる。どんな工夫があるか、利点があるかなど、話し合ってもよい。

トピック 5 せいかつ

第9課 なんじに おきますか

① 6じはんに おきます 「Can-do 23 何かをする時間を言います」

p.62-63 のイラストから、1日の生活行動について話しているという場面を理解させる。人々の生活が多様化している中で、お互いの生活行動について聞いたり話したりすることは、交流として格好の話題。音声は「6時半におきます」と句単位で発話されるので注意。動詞を指さしながら聞いたり、時間を指さしながら聞いたりして、複数回聞く。朝 6:30 から夜 12:30 まで全体を通して聞いたほうが場面に即して理解しやすいが、学習者のレベルによっては動詞や時間を細切れにして聞いてもよい。最後に、確認のために時間表現のメモの音声も聞く。

②は、はじめに聞いた音声と同じものを聞いて、時間を選ぶ。③は、会話を聞いて動詞を選ぶ。導入する語いが多いので、時間、動詞という2段階で練習する。

②はよいですね 「Can-do 23 あることをする時間を話します」

音声を聞く前にイラストを見て、職業(会社員、力士、まんが家、政治家、歌手)を話し合い、起きる時間を推測する。職業によって、起きる時間と寝る時間が違うので、それを楽しむ。答えを確認後、「～時に」と「～時ごろ」を簡単に説明する。P.62 の時間表現のメ



モをみながら「時間+ごろ」の言い方を練習してもよい。「はやいですね」「おそいですね」の意味を確認してから、**2**のペア会話をする。

③まいにち いそがしいです 「Can-do 24 一日の生活を話します」

よしださんの家族の1日の生活を聞く。よしださん、よしださんの母、妻、子ども（高校生、男の子）の4人。比較的長い発話を聞くので、イラストの時間と動詞を確認したり、答えを推測させてから聞く。答えを確認後、生活スタイルの違いで家族がばらばらに晩ごはんを食べることを話し合ってみるとよい。**2**は、朝起きてから寝るまでを一つ一つ羅列して話すのではなく、よしださんの家族の中から、自分の生活に近い人を選んで、それをモデルに5~6文程度で話す。

第10課 いつがいいですか

①かようびは よる がっこうに いきます 「Can-do 25 一週間のスケジュールについて話します」

音声は「来週の月曜日に病院に行きます」という文単位なので注意。第9課同様に、全体を通して複数回聞いて「一週間のスケジュールについて話している」という場面を理解させる。その後、時の表現、平日や週末の活動の語いを一つ一つていねいに練習する。

2音声を聞く前に、イラストのスケジュール帳を確認しておく。聞いた後で、メモを使って「～から～まで」を簡単に説明し、「あべさんは月曜日から金曜日まで会社に行きます」という文の意味を確認する。**3**のペア会話は、日程調整のために自分のスケジュールを話しているという設定。そのために、「あなたと友だちはいつひまか」という質問がある。

②いつでも いいです 「Can-do 26 パーティーをいつにするか話します」

バースデーパーティーの日程を決めるために、キムさんが電話をしているという設定。やりとりが複雑にならないように、土・日のどちらかに決める。**1**は、問題1番で場面設定し、2番目以降は省略しているので注意。聞く前に人物と土、日などの意味を確認しておく。バースデーパーティーはいつになったか確認後、3人のそれぞれの答えも確認する。その前に「いつがいいです」などの表現を教え、「ジョイさんは日曜日がいいです」と言わせるとよい。**2**の会話は、都合があわなければそれでもよい。そのことを「～は、だめです」と日本語で言えればよい。

③おめでとう！ 「Can-do 27 バースデーカードをかきます」

カーラさんのバースデーパーティーに持っていくために、友だちが書いたカードを読む。音声を聞いて、パーティーで使う便利な表現「誕生日おめでとう」「かんぱい」を練習する。機会があれば日本語でもカードを書くように、学習者に勧める。



<生活と文化> 朝と夜

都会で暮らす人々の朝と夜の生活行動を見る。

朝 8～9 時ごろ：①集団登校する小学生、②お母さんが子どもを自転車（ママチャリ）で幼稚園に送っていく、③駅の通勤ラッシュ

夜 8～9 時ごろ：④スポーツジム、⑤飲み会、⑥⑦塾に通う子ども

トピック 6 やすみのひ 1

第 11 課 しゅみは なんですか

①しゅみは スポーツです 「Can-do 28 しゅみについて話します」

お見合いパーティーに行き、気の合う人を見つけるために趣味を話題に会話をするという場面。語数がかかなり多いが、自分に必要なものを覚えればよい。それがない場合は教師が教える。

②やすみの ひは しゃしんを とります 「Can-do 29 休みの日に何をするか話します」

②はペア練習に入る前に、頻度の副詞（よく、ときどき、あまり、ぜんぜん）の意味を教える。表では頻度の多いほう（よく）濃い色、少ないほう（ぜんぜん）がうすい色になっている。

この課全体の目的が、だれかと知り合いになるきっかけとして共通点を見つけることなので、ペア会話の後、二人の共通点を言うようにする。

第 12 課 いっしょに いきませんか

①みに いきますか

「Can-do 30 イベントのポスターやカレンダーを読みます」

「Can-do 31 イベントに行くかどうか言います」

イベントのポスターやカレンダーなどの情報を見ながら、友だちに声をかけたり、さそったりする。Japan Foundation など各機関の国際交流コーナー、観光局など、イベント情報があるところでの会話、あるいは、入手した情報源を見ながら休憩室やロビー、などでの会話。

イベントのポスターを見開き 2 ページにわたって配置している。月日と値段の言い方に注意。値段は現地通貨の日本語発音も確認する。月日はここが初出なので、言い方を紹介すること。巻末資料(p.143)を参照すると便利。ただしこのトピックでは、視覚情報を見ながら聞く状況（ポスターやカレンダーを見ながら日程を聞く）なので、正しく覚えて言えるようになるまで練習をする必要はない。

ポスターには漢字もあるが、その意味はそこにある情報から推測してみる。たとえば「日時」「日程」は、そばにイベントの実施日と思しき情報があるところから推測可能。



②③の会話はイベント（すもう）に行くか、行かないかを聞くもので、いたってシンプルだが、聞いているほうには、もし行くのならいっしょに行きたい、あるいはチケットを持っているからあげたい、などの意図があるかもしれない。コミュニケーションのきっかけになり得る会話。答える側としては「たぶん」が重要。はっきり言えないときのために、便利な語である。

②いっしょに みに いきませんか「Can-do 32 友だちといっしょに出かけるかどうか話します」

場面は1と同じ。①はイベントカレンダーを見ながらの誘いの会話を聞く。実際の行動に即した活動にするために、日程の聞き取りも、カレンダーを見ながら行う。先述したように、すべての日時の言い方を練習する必要はないし、覚える必要もない。海外の場合は②の会話は、学習者が自分の町や国のイベントに日本人をさそうという状況でやってみる。そのために、教師は現地の情報を入手しておく。

<生活と文化> 日本の季節のイベント・日本の祝祭日

日本の季節とイベント（写真）と祝祭日のリスト。イベントは写真を見ながら簡単に説明をする。学習者の国や町では人々が楽しみにしているイベント、外国人にも紹介したいようなイベントがいつあるか、皆で話す。何月何日は日本語で、イベントの名前は母語でかまわない。教師は準備が可能ならば、日本語の旅行ガイドブックなどで現地のイベントを日本語でどう表記するか／なんとと言うのか調べておくとよい。

Japan Foundation など、日本関係機関のイベント情報も配布できるとよい。行くかどうか聞くこともできるし、学習者は「たぶん」を早速使えることだろう。

トピック7 まち

「旅行・交通」がテーマ。扉写真は渋谷駅前の交差点。東京で外国人がもっとも訪れる場所の一つである。

第13課 どうやって いきますか

①ホテルまで おねがいします

「Can-do 33 駅やタクシーのサインを読みます」

「Can-do 34 タクシーに乗って、メモを見せて行き先を言います」

第13課では、旅行先で、目的地まで行くのにどんな交通手段で行けばいいか、ホテルの人に聞く。①②の写真は駅の出入り口とタクシー「空車」のサインが小さくて見づらいが、Can-do 34 の対象なので、よく見てほしい。

②のタクシー会話は、空港からホテルまでを A1 レベルなりに自力で行くという設定。行き先を書いたメモを運転手に見せる点が A1 レベルとしては重要。行き先までの所要時間を引



き出すのも、シンプルに「とおいですか」と聞く。右下のイラストは、途中で下車したい場合の表現。(ここでいいです。)

②さくらこうえんはバスが いいですよ「Can-do 35 目的地までどうやって行くか話します」

②、③はタクシーでホテルに着いた後の話。目的地までどんな交通機関で行くのがいいか、ホテルなどで聞く場面 (p.79 右下に写真)。「べんりです」のイラストは本数の多いバスの時刻表だが、わかりづらければ学習者に説明してほしい。②ペア会話は、海外の場合は現地の事情を在住の日本人に教えるつもりで練習する。

③あさくさまで どうやって いきますか「Can-do 35 目的地までどうやって行くか話します」

①は交通機関の乗り換え。ここでもメモが A1 レベルとして重要。スクリプト中、「まず」が一度だけ出てくるが、ペア会話では使わないので文字化していない。訳語を言うなど、意味だけ簡単に確認する。②では、乗り換え情報などやや込み入った内容を聞くときに、「もう一度言ってください」「ここに書いてください」は役に立つ表現。練習でも使ってみてほしい。

第 14 課 ゆうめいな おてらです

①おてらは どこですか 「Can-do 36 地図を見ながら目的地までどうやって行くか話します」

① (1) はいろいろな建物が地図上どこか、「～はここです」を聞きながら指で指して確認。
(2) は②の準備。②の状況は、目的地の近くまで来たものの、その先がわからない。確認するために路上で通行人に声をかけ、持っている地図を見せながら、それを使って道順を説明してもらうというもの。地図は広域地図ではなく、目的地周辺の地図である。

③では②で使った地図を再度使うが、実際に現在地、道順、目的地を指差しながら話すことが大切。

第 13 課でメモ、第 14 課で地図を使っているように、A1 レベルではコミュニケーションを効果的に進める上で、視覚的補助を介することがポイントである。

②いま どこですか 「Can-do 37 今どこにいるか電話で話します」

待ち合わせに現れない友だち、これから会うことになっている友だちに電話して現在地を確認するという場面設定。心配して電話するほうは現地の人、電話を受けるほうは現地の事情や言語に慣れていない旅行者などを想定している。前者が迎えに行くことになる。



③なんじまでですか 「Can-do 38 店の時間を読みます」

旅行中に行く場所で目にする看板などの写真。1（観光センター）、2と5（飲食店）、3（ATM）、4（動物園）。読み方はローマ字あり。意味は類推する。

<生活と文化> 日本のまち（まちでみかけるもの）

日本の町にあるものを見て、同様のものが学習者の町にもあるか、同じ機能でも何か違う点があるかなど、話してみる。また、学習者の町にはないが、日本の町にはあるものについて、なぜなのか、日本で生活する人々のどんなニーズにこたえるためのものなのか、など考えてみてもよい（例えば「5 駐輪場」）。

トピック 8 かいもの

第 15 課 かわいい！

①あれ、なんですか「Can-do 39 買いたいものについて話します」

浅草。一時帰国する予定でおみやげを買いに来ているカーラさんと、買い物を手伝うために来ているすずきさん。「聞きましょう」は聞いて場面を理解できればよく、聞いた後に「あれ、何ですか」「しゅりけんです」という練習をする必要はない。メモにある「こうやって」は、説明に便利な表現なので、ジェスチャーつきでやってみる。

②かわいい ハンカチが ほしいです 「Can-do 39 買いたいものについて話します」

店でおみやげを見て話しているという設定。おみやげ（a-d の写真と助数詞）とカーラさんが書いたおみやげリスト（p.95 の上）を見て、語いと助数詞を確認してから、**2**をする。助数詞の練習に時間をかけなくてよい。この課で必要なものがわかればよい。(1)何について話しているか(大意を聞く)、(2)誰にあげるものか(詳細に聞く)の2段階で音声を聞く。**2**のペア会話（p96）は、日本に来た旅行者がおみやげを買うという設定。レベルや時間によっては p.94- p.95 以外の語いを紹介してもよい。自分でおみやげリストを作成すると楽しい。ローマ字表記でもよい。

③どこで かえますか「Can-do 40 ほしいものがどこで買えるか話します」

すずきさんがカーラさんの買い物を手伝う場面。「買えますか」は、買い物で使う定型表現として教え、可能形の説明はしなくてよい。海外の場合、**2**のペア会話は、自分の町に来た日本人の買い物を手伝う設定になるので注意。たとえば、日本人「タイシルクがほしいです。どこで買えますか。」タイ人「ジムトンプソン（有名な店の名前）がいいですよ。」または「サイアムスクエア（シルクの店が多い場所）がいいですよ。」というやりとりを想定している。



第16課 これ、ください。

①いくらですか

「Can-do 41 店にあるものについてどう思うか言います」

「Can-do 42 商品の値段を読みます」

カーラさんとすずきさんは、浅草からほかの町（渋谷や銀座）に移動した。町を歩く人々や店にあるもの（ショーウィンドの洋服）を見て、自分の感想を簡単に言っている。服に関する語いを確認する。①の音声は「あのパンツ、かっこいい」という句単位なので注意。もう一度聞いて指をさす、語い練習としても使う。②は、写真を見ながら表現を練習する。男性は「わあ、たけー」という場合もあるが、必要に応じて紹介する。③は、はじめに服に関する語いと数字の読み方（p.150 参照）を確認する。「¥2900」を値段表と見なして読む。値段表は見ればわかるが、音声化して日本人に値段を教えてあげられるように「(a は) にせんきゅうひゃくえん」と音声化して、何回か言ってみる。ただし、言えるようになるまで何回も練習はしなくてよい。会話を聞いて、値段が聞き取れていればよい。

②ほかの いろ、ありますか 「Can-do 43 店で買い物をします」

①は、買い物ができるように、重要語いや表現を練習する。②は、□の部分にサイズ(L、M、S)や色(10色)を入れ替えて、話すので、サイズと色を確認しておく。

③これ、ください

「着てみてもいいですか」が新出なので注意。A1 レベルでは、覚えた会話を場面にあわせて言えればよい。ジェスチャー・対人距離・表情などに注意。

<生活と文化> おみやげ

日本ではおみやげにお菓子を買っていくことが多いので、各地のお菓子をとりあげた。味に話題が集中しないように注意。おみやげを買う目的や行動に焦点をあてる。学習者の国でもおみやげとしてお菓子が多いか、どの範囲の人（近所、友だち、会社の人など）に買っていくかなど話す。日本各地に独自のお菓子があり、地域の産業振興として役立っているということを紹介してもおもしろい。

トピック9 やすみのひ2

最後のトピックとして、これまでのトピックの復習をする。

第17課 たのしかったです

①やすみは たのしかったです

「Can-do 44 短いブログを読みます」「Can-do 45 休みに何をしたか話します」



「Can-do 46 どう思ったか簡単に言います」

この課は、週末や休暇明けに、会社の同僚や友だちが休暇をどうすごしたか報告しあうという場面設定。

①は写真つきで公開されている個人の記録としてブログ形式をとりあげた。写真を見ながら、ブログの文を読む。絵文字がよく使われることも、意味とともに紹介したい。この時点で、自分のブログを日本語で書くことを想像できる学習者もいるかもしれない。

②では聞くポイントが (1) 休みに何をしたか、(2) どう思ったか、と 2 つある。1 回目は前者に、2 回目は後者に集中して聞くとよい。ただ、最終トピックなので、学習者によっては、特に集中するポイントを指定しないで聞いてもかまわない。その場合でも 2 回は聞かせたい。

②なにも しませんでした 「Can-do 45 休みに何をしたか話します」

流れとしては①-②の続き。①-②では休みになにかした人の話だが、ここでは特別なことはなにもしなかった人の話を聞く。何か特別なことをするわけでもなく、静かに過ごす休日というのも、成人学習者にとっては共感できるものではないかと思う。この会話を聞いた後で、学習者にどう思うか聞いてみるといいだろう。

③また いきます

「Can-do 46 どう思ったか簡単に言います」

「Can-do 47 休みの日のことについて短いブログを書きます」

ここではとくに感想を言うことに力点をおいた。

①では同じイベントに行った複数の人たちからいろいろな感想を聞く (p.107)。Q1 に関して、3 かわいさんの答えはスクリプト上あいまいであるが、音声では否定的態度を表現している。声の調子から、判断してみしてほしい。かわいさんの正解は「いいえ」。

②は学習者の町のイベントを思い出しての会話。過去形を使いたいので教師は注意。「今年の～」(すでに終わっているイベント)、「去年の～」、「このあいだの～」など必要な表現を補うこと。コメント用表現は最小限の 2 つ (よかったです、まあまあでした) しか会話流れ図にないが、p.107 の表現も使ってみるとよい。

③は学習者自身がブログのようなものに挑戦する。写真を貼って、したこと、思ったことの 2 点を書く。言語による表現力に限りがある分、ブログとして生き生きとしたものにするには写真、あるいはイベントのチケット、パンフレット (切り抜きでも) リアルな「証拠」がほしい。

第 18 課 つぎは きょうとに いきたいです

①きょう 日本に きました

「Can-do 48 簡単な E メールを読みます」



「Can-do 49 旅行の時何をしたか話します」

休暇中の旅行について、友だちに報告する。メインキャストのパウロとその祖母マリアは初登場。マリアは日系移民で、若いころ日本を離れたが、孫のパウロといっしょに久しぶりに日本を訪れたという、少々こみいった設定ではあるが、海外の日本語話者の一側面を表すものと思う。

①は17課のブログに続いて、第18課は友だちへのEメールを読む。ここではイラストだが、本来は写真といっしょに文が提示される。視覚情報と共にメッセージを伝えることになる。3番「(そばは) たいへんでした。でも、おいしかったです。」の「でも」の意味は、訳語を示すなどして簡単に教える。友好的な国際交流という観点からコメントはあまり否定的にならないようにしたいので、この課では、結論としてはよかったというコメントにした。

②「～日目」「それから」は会話を聞くときに必要な文字化してある。聴解の前に、簡単に意味を教えたほうがよい(訳語でよい)。「それから」は行動を時系列でリストアップする。ここでは、マリアが旅行中にしたことを思い出しながら話している。

③はちょっと込み入っているなので、会話の流れを見失わないように気をつける。おみやげは、トピック8(買い物)で取り上げられている。渡すときの表現「これ、どうぞ」「どうもありがとうございます」は、できればおみやげのようにみえる箱や袋を手渡ししながら行いたい。

②つぎは きょうとに いきたいです「Can-do 50 次の旅行はどこに行きたいか言います」

①は聞くポイントが(1)何をしたか、(2)次はどこに行きたいか、と二つある。1回目は前者に、2回目は後者に集中して聞くとよい。ただ、最終トピックなので、学習者によっては、特に集中するポイントを指定しないで聞いてもかまわない。その場合でも2回は聞かせたい。写真で観光地4箇所を示した。このほかの観光地も「生活と文化」にあるし、次の②に時間がかかるので、ここではこの4か所だけにしておいたほうがいだろう。

②は自分自身の旅行について話す活動。質問の答えを考え、メモをして、ペアでQAをする。教科書全体の復習のため質問が多いが、1(どこに行ったか)、6(何をしたか)、7(どうだったか)は、おさえてほしい。海外においては、日本への旅行よりも国内や周辺国への旅行をとりあげる学習者が多いかもしれない。その場合は、ペア練習の相手を日本人にお願いできれば、自分の旅行体験を話すことが日本人への観光情報提供になる。自分の話の内容がほかの人の役に立つとなれば、コミュニケーションをする動機も強くなるだろう。学習者の旅行先がどこかわかるようにしたいので教室には地図がほしい。

<生活と文化> 日本のかんこうち

日本地図と写真を見ながら、どこに行ってみたいか話す。観光旅行のパンフレットなども



あれば、より楽しい。教師はこの地図で取り上げられている観光地について基本的な情報を入手しておいたほうがよいだろう。

また、学習者の国ではどんなところが有名か、自然、寺社、城、特徴のある町などに分けて考えてみるのも日本や他の国のものとの比較ができておもしろいだろう。

以上